

「ふくしま映画塾」3日間の映画作りレポート

場所：福島県男女共生センター

開催日：2009年7月18日～20日

参加者数：26名

開催趣旨：映画の創り方を、映画制作の第一線に立つ講師陣に直接指導を受けることで、映像の持つ可能性を発見したり、様々な気づきを得たりしながら、楽しんで学びます。

また完成作品は「福島こどものみらい映画祭」で上映されます。それはまさに県民自身による映像文化への気づきと発信なのです。

1日目

当日会場には、12人の講師陣、県内各所からサポートのために駆けつけた映画祭実行委員、そして15歳から60代まで幅広い年齢層の26名の受講生達が集まった。



講義

映画の制作現場の第一線で活躍する講師陣（監督、俳優、撮影、脚本、音楽、プロデューサー）が、映画について講義。

受講生たちは、細かくノートを取りながら、少しでも多くのことを吸収しようと講師の言葉に聞きいていた。

講師陣をリーダーにして受講生5～6人で5つのチームを構成。

リーダーを中心にして、3日間の映画作りがスタート！



企画

どんな映画をつくるかというところからどんなストーリーにするか、映画の舞台、登場人物などを各班それぞれの方法で決めていく。

横井チームは、受講生に自由にキーワードを出してもらいそれを紙に書いていって並べるといった方法を使っていた。

各チームで撮影担当、脚本担当、ロケハン・キャスティング担当を決め、それぞれで明日の撮影に向けて準備開始。

撮影担当



撮影監督の藤石修さんにカメラの扱い方、撮影の基本テクニックなどを始め、第一線で活躍するカメラマンにしか聞くことのできない実践的なテクニックを教わる。

使用したカメラは Panasonic AG-HMC75。肩乗せのプロスタイルに受講生の興奮もひとしお。

脚本担当



脚本家の我妻正義さんに脚本の書き方を教わり、企画で決めた映画のストーリーを脚本に起こしていく。

はじめての脚本作りに頭を悩ませる受講生たち。
生きた台詞にするには？
説明しすぎているか？
など試行錯誤を繰り返す。

ロケハン・キャスティング担当

企画段階で決定した作品の舞台と登場人物を基にロケハン・キャスティングを行う。

ロケハンには二本松フィルムコミッションの方々に協力していただきました、キャスティングでは、受講生自ら出演はもちろん、地元の住民の方をお願いしているチームもあった。

脚本作りは深夜まで及び、いよいよ明日の撮影を待つばかりに！

2日目

各チームロケ地へ向かい、いよいよ撮影開始！



■ 撮影

1日目のロケハンで見つけた撮影場所に向かい撮影を開始。
与えられた撮影日数は、たったの1日。
この限られた時間の中で全てのシーンを撮り終えなければならぬ。

時間がない上に天気予報では曇り時々雨。
朝は曇りだったが、昼過ぎに雲行きが怪しくなって焦る各チーム。

各チーム宿舎に一度戻ってきて昼食を食べることになっていたが、
当日、宿舎には結局1チームも現れなかった。



受講生達は、はじめての映画撮影で何をしたいのか迷っている様子もあったが、撮影が進むにつれて、自分の役割を見つけ協力しあっていた。

「こっちから撮ったほうが良い」
「もっとはっきりした動きで」
などみんなが声を掛け合う姿も。

日が暮れて夕食時になっても撮影を続けるチームもあったが、
とりあえず全てのチームが無事にオールアップを向かえた。

帰ってきたら早速編集機に撮ってきた素材を取り込む。

今回撮影に使用された記録メディアはSDカード。PCへの取り込みもボタン一つで行うことができた。
これにはプロの講師陣も興味していた。

3日目

仕上作業の始まり。撮ってきた素材を並べて編集作業。
そして上映会へ



■ 編集

プロの現場で使われる編集ソフト
FinalCut Studio を使っての編集作業。

受講生は、編集機に使用された Apple MacPro と大きなディスプレイに目を輝かせていた。

作品発表上映会の時間がせまる。絶対に完成させたい！ 焦る講師陣と受講生たち。

なんとか全てのチームが作品を完成。
いよいよ作品発表上映会。



■ 上映

出来上がった作品を大型スクリーンで上映。
全チームで上映会。

自分達で作った映画が大きなスクリーンに映し出され、感動する受講生たち。
コメディ映画を作ったチームもあり、笑い声の絶えない上映会となった。

感動のうちに作品発表上映会が終了。
そして壮絶な3日間の映画作りも大成功で幕を閉じた。

